

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素関連物質	0141 グアナーゼ 3B125-0000-023-271-01	血清0.5	1	冷蔵	3~4	35 生I	酵素法	U/L (37°C) 0.4~1.1		急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 薬物中毒 白血病
	5137 アンギオテンシンI 転換酵素 (ACE) 3B325-0000-023-271-01	血清0.2	1	冷蔵	2~3	152 生I	笠原法	mU/mL 8.3~21.4	EDTA使用不可	カルコイドーシス 甲状腺機能亢進症 ゴーシエ病 硅肺症 クローン病 肺癌
	0142 ADA (アデノシンデアミナーゼ) 3B130-0000-023-272-01 3B130-0000-042-272-01	血清0.5	1	冷蔵	3~4	32 生I	UV法 (酵素法)	U/L 7.8~21.1	溶血は高値 の影響が あります	肝・胆道疾患 急性白血病 悪性リンパ腫 骨髄腫
		胸水0.5	2	冷蔵				U/L	下記参照	※01
	0112 リゾチーム (ムラミダーゼ) 3B255-0000-023-292-01 3B255-0000-001-292-01	血清0.3	1	冷蔵	3~4		比濁法	μg/mL 5.0~10.0		単球性白血病
		尿1.0	2	冷蔵	3~6			μg/mL 0.0		※01
	1022 リパーゼ 3B180-0000-023-271-01 3B180-0000-001-271-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	24 生I	カラーレート法	U/L 11~59		急性脾炎 脾管閉塞
		尿1.0	2	冷蔵				U/L		
	2371 トリプシン 3B185-0000-023-023-01	血清0.5	1	冷蔵	3~5	191① 生I	ELISA法	ng/mL 100~550		急性脾炎 慢性脾炎 脾癌
	1025 N-アセチル グルコサミニダーゼ (NAG) 3B330-0000-001-271-01 3B330-0000-023-271-01	尿5.0	2	冷蔵	1~2	41 尿糞	合成基質 比色法	U/L 7.5以下		腎不全 ネフローゼ症候群
		血清0.3	1	冷蔵				U/L 2.9~9.7		肝硬変
	1011 アルカリ ホスファターゼ (ALP) 3B070-0000-023-271-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	JSCL標準化 対応法	IU/L 110~354		肝・胆道疾患 骨疾患 甲状腺機能亢進症 悪性腫瘍
	1012 AST (GOT) 3B035-0000-023-272-01	血清0.3	1	冷蔵		17 生I	JSCL標準化 対応法	IU/L 9~38		肝疾患 心筋梗塞 閉塞性黄疸
	0151 ミトコンドリアAST (m-GOT) (m-AST) 3B036-0000-023-272-52	血清0.8	1	冷蔵	3~5	49 生I	プロテアーゼ法	U/L 7以下		急性肝炎 慢性肝炎 劇症肝炎 肝癌 アルコール性肝障害
	1013 ALT (GPT) 3B045-0000-023-272-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	17 生I	JSCL標準化 対応法	IU/L 5~39		肝・胆道疾患 心筋梗塞 閉塞性黄疸
	1014 LD (LDH) 乳酸脱水素酵素 3B050-0000-023-272-01	血清0.3	1	冷蔵		11 生I	JSCL標準化 対応法	IU/L 120~260		急性肝炎 うつ血性心不全 心筋梗塞 悪性腫瘍 白血病 悪性貧血 溶血性貧血
	1017 γ-GT (γ-GTP) 3B090-0000-023-272-01	血清0.3	1	冷蔵		11 生I	JSCL標準化 対応法	IU/L M:84以下 F:48以下		胆汁うつ滞 アルコール性肝障害 閉塞性黄疸 急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 肝癌

① 脾分泌性トリプシンインヒビター (PSTI) とトリプシンを同時に測定した場合はいずれか一方のみの所定点数を算定。

### [2372] ADA (胸水) の参考値 単位:U/L

結核性胸膜炎症例	50.4~154.6
肺癌症例	10.9~36.1
心不全等上記以外の症例	3.2~8.8

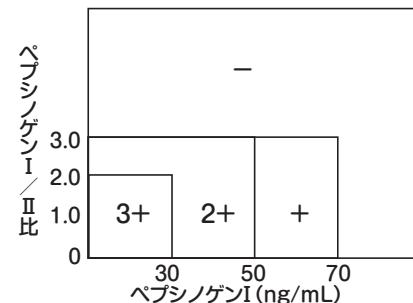


項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素 関連 物質	1016 ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP) 3B135-0000-023-271-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	L-ロイシル-pニトロアニリト基質法	IU/L 39~77		肝胆道疾患 急性肝炎 肝癌 肝硬変 急性肝炎
	1015 コリンエステラーゼ(ChE) 3B110-0000-023-272-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	IU/L M:235~494 F:196~452		ネフローゼ症候群 糖尿病 高血圧 甲状腺機能亢進症 慢性肝炎 肝硬変 貧血 家族性コリンエステラーゼ欠損症
	1018 クレアチニンキナーゼ(CK) 3B010-0000-023-272-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	IU/L M:40~220 F:30~190		進行性筋ジストロフィー症 多発性筋炎 心筋梗塞
	1020 アミラーゼ(AMY) 3B160-0000-023-271-01 3B160-0000-001-271-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	JSCC標準化対応法	IU/L 37~124		急性肝炎 慢性脾炎 脾管閉塞 マクロアミラーゼ血症 唾液腺疾患 耳下腺炎
		尿2.0	2	冷蔵				IU/L 48~740		
	1279 ペプシノゲンI II 3B339-0000-023-062-11	血清0.5	1	冷蔵	1~2		LA法	下記参照		萎縮性胃炎 胃癌 消化性潰瘍
	2548 リポ蛋白リパーゼ(LPL) 3F160-0000-022-023-01	血漿0.3	19	冷蔵	3~7	223① 生I	ELISA法	ng/mL 164~284	備考 早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり3ml単位静注し15分後、指定の容器に採取し、4℃で適心分離後、上清の血漿を凍結保存にてご提出ください。 EDTA血漿ははげてください。 基準値につきましては上記採取条件に基づき設定しております。 ※02	家族性高リポ蛋白血症型 アボCII欠損症 家族性LPL欠損症
	1046 L-CAT (レシチン・コレステロールアシルトランスフェラーゼ) 3F170-0000-023-271-01	血清0.4	1	冷蔵	3~4	70 生I	酵素法	U (U:nmol/mL·hr (37℃)) 235~550 ※01		脂肪肝 肝細胞障害 家族性LCAT欠損症 先天性HDL欠損症
	1024 アルドラーゼ(ALD) 3B100-0000-023-272-01	血清0.5	1	冷蔵	2~3	11 生I	UV法	U/L (37℃) 2.7~7.5	※01	筋疾患 脳卒中 急性肝炎 慢性肝炎 再生不良性貧血 心筋梗塞
	1324 脾ホスホリパーゼA <sub>2</sub> (脾PLA <sub>2</sub> ) 3B192-0000-023-005-01	血清0.3	1	(分離後 絶凍)	5~8	204 生I	RIA固相法	ng/dL 130~400	※33	急性肝炎 慢性脾炎 脾癌

①リポ蛋白リパーゼは、高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合のみ算定できる。  
また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは区分番号「D500」の薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。

### ペプシノゲン(判定基準)

		ペプシノゲンI	ペプシノゲンI/II比
強陽性	3+	30ng/mL以下	かつ 2.0以下
中程度陽性	2+	50ng/mL以下	かつ 3.0以下
陽性	+	70ng/mL以下	かつ 3.0以下
陰性	-		上記条件以外



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患
酵素アイソザイム	0162 LD (LDH) アイソザイム 3B055-0000-023-233-00	血清0.3	1	室温	2~3	48 生I	アガロース膜電気泳動法	% LD <sub>1</sub> :20.0~31.0 LD <sub>2</sub> :28.8~37.0 LD <sub>3</sub> :21.5~27.6 LD <sub>4</sub> : 6.3~12.4 LD <sub>5</sub> : 5.4~13.2	溶血でのご依頼は避けてください。 (溶血の場合 LD <sub>1,2,3</sub> の上昇が考えられます。)	LD1:心筋梗塞 悪性貧血 溶血性貧血 再生不良性貧血 LD2:白血病 悪性腫瘍 悪性リバーラ LD3:4:肺梗塞 肺癌 悪性腫瘍の肺転移 ・肝転移 LD5:急性肝炎 肝癌
	0161 ALPアイソザイム 3B080-0000-023-233-00	血清0.3	1	必ず冷蔵	2~3	48 生I		% ALP <sub>2</sub> : 35.8~74.0 ALP <sub>3</sub> : 25.1~59.0 ALP <sub>5</sub> : 0.0~16.1	ALP1:閉塞性黄疸 限局性肝障害 ALP2:慢性腎不全 肝・胆道疾患 ALP3:骨疾患 骨腫瘍 副甲状腺機能亢進症 ALP4:妊娠末期 ALP5:血液型OおよびB型分泌型肝梗変	
	0163 アミラーゼアイソザイム 3B165-0000-023-233-00	血清0.3	1	必ず冷蔵		48 生I		% Total S:35.4~84.1 Total P:15.7~64.6	S:唾液腺由来 P:唾液由来	高アミラーゼ血症の鑑別 P型増加:急性膵炎 慢性膵炎増悪期 S型増加:唾液腺疾患 腎不全 肝癌 (マクロアミラーゼ 産生腫瘍) 卵巣疾患
	0164 アミラーゼアイソザイム(尿) 3B165-0000-001-233-00	尿5.0	2	必ず冷蔵		48 生I		% Total S:27.0~51.0 Total P:39.0~73.0	U/L 免疫阻害法 50以下	※33
	4617 P型アミラーゼ定量 3B175-0000-023-271-01	血清0.6	1	冷蔵	2~3	55 生I	アガロース膜電気泳動法	U/L 免疫阻害法 50以下	MM:骨格筋由来 MB:心筋由来 BB:脳・平滑筋由来	心筋梗塞発作後の病態把握 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎 腫瘍性疾患 (胃・前立腺・肺など)
	0165 CKアイソザイム 3B025-0000-023-233-00	血清0.3	1	必ず冷蔵	2~3			ng/mL 5.0以下	心筋梗塞発作後の 病態把握 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎	
	5409 CK-MB 3B015-0000-023-051-01	血清0.5	1	必ず冷蔵	1~2	90 生I	CLIA法	ng/mL 5.0以下		

生体色素検査・膠質反応	1001 総ビリルビン (T-Bil) 3J010-0000-023-271-01	血清0.3	1	冷暗所	1~2	11 生I	パナジン酸酸化法	mg/dL 0.2~1.2		肝炎 肝・胆道疾患 肝細胞性黄疸
	1002 直接ビリルビン (D-Bil) 3J015-0000-023-271-01	血清0.3	1	冷暗所		11 生I		mg/dL 0~0.4		閉塞性黄疸 溶血性黄疸
	1009 硫酸亜鉛試験 (クンケル反応) (ZTT) 3A030-0000-023-292-01	血清0.3	1	冷蔵		11 生I	日本消化器学会 肝機能研究班 推奨法	U 2~12		慢性肝炎 肝硬変 膠原病 マクログロブリン血症 M蛋白血症
	1008 チモール混濁反応 (TTT) 3A025-0000-023-292-01	血清0.3	1	冷蔵		11 生I		U 4以下		急性肝炎 活動性慢性肝炎 肝硬変 膜原病 慢性感染症 M蛋白血症
	0525 δ-アミノレブリン酸 3J075-0000-004-204-01	尿1.0	35	必ず遮光 冷蔵	4~6	112 尿糞	HPLC法	労働省分布を参考 P98		急性間欠性ボルフィリン症 異型ボルフィリン症 鉛中毒 肝性コボルフィリン症 骨髄性ボルフィリン症
	0527 ポルフォビリノゲン (尿) 3J065-0000-004-271-01	蓄尿3.0	35	必ず遮光 凍結	4~7	191 尿糞	比色法 (M・G変法)	mg/day 2.0以下	一日尿量記入 ※02	アルコール性肝硬変 甲状腺機能亢進症 ポルフィリン尿症
	0528 ウロポルフィリン (尿) 3J050-0000-001-204-01	尿2.0	35	必ず遮光 冷蔵	4~7	110 尿糞	HPLC法	μg/g・CRE 36以下		白血病 各種貧血 ホジキン病 鉛中毒
	5228 コプロポルフィリン (赤血球) 3J040-0000-019-204-01	血液1.5	19	必ず遮光 冷蔵	8~12	210 生I	HPLC法	μg/dL RBC 1以下	凍結不可 ※02	骨髄性ポルフィリン症 肝性ポルフィリン症
	0526 コプロポルフィリン (尿) 3J040-1352-001-204-01	尿2.0	35	必ず遮光 冷蔵	4~7	143 尿糞	HPLC法	μg/g・CRE 170以下		ポルフィリン尿症 各種貧血 鉛中毒 ※02
	2246 プロトポルフィリン (赤血球) 3J055-0000-019-204-01	血液1.5	19	必ず遮光 冷蔵	4~10	280 生I	HPLC法	μg/dL RBC 30~86	凍結不可 ※01	骨髄性プロトポルフィリン症 鉛中毒 鉄欠乏性貧血 溶血性貧血 鉄芽球性貧血



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
生理機能	4788 シスタチンC 3C016-0000-023-062-01	血清0.3	1	冷蔵	1~2	124① 生I	LA法	[男性] 0.61~1.00 [女性] 0.51~0.82	mg/L	腎機能低下 腎不全 (高度上昇)
	4976 推算GFRcys (eGFRcys)						計算法※ (血清シスタチンC、年齢、性別から推算式で算出)	mL/min/1.73m <sup>2</sup>	血清シスタチンCと 同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。 性別・年齢を明記。 18歳未満は換算不可。	糸球体濾過量の推定
	0144 クレアチニクリアランス (CCr) 8A020-0000-098-271-29	血清0.3 尿5.0	1 2	冷蔵	1~2		酵素法	70~130mL/min 100~187L/day	採取方法は 下記参照	糸球体腎炎 腎硬化症 尿路閉塞 うつ血性心不全
	4962 CCr (Cockcroft-Gault推定式)						計算法※※ (血清クレアチニン、 体重・年齢・性別から推算式で算出)	mL/min	血清クレアチニンと 同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。 性別・年齢・性別を明記。	慢性肝炎 肝硬変 デュビン・ジョンソン 症候群 ジルペール症候群
	0145 尿素クリアランス 8A045-0000-098-271-29	血清0.3 尿5.0	1 2	冷蔵	1~2		ウレアーゼ GLDH法	70~130	%	採取方法は 下記参照
	0122 インドシアニングリーン (停滞率) (ICG-R) 8A010-0000-023-271-29	各血清1.5	1	冷蔵	1~2	100② 生体検査料	比色法	15分:0~10	%	採取方法は 下記参照
	0140 インドシアニングリーン (消失率) (ICG-K) 8A011-0000-098-271-29	各血清1.5	1	冷蔵	1~2	150② 生体検査料	比色法	0.168~0.206	%	採取方法は 下記参照
	0183 PFD (PABA排泄率) 8A090-0000-098-271-29	尿各3.0	2	冷蔵	3~4	100② 生体検査料	比色法 (DACA法)	6時間排泄率 73.4~90.4	%	服用から6時間まで 全量蓄尿 尿量記録 服用前と6時間後の 2本検体必要 ※01

①シスタチンCは、尿素窒素 (BUN) 又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。

ただし、ベントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

②注射、採血及び検体測定の費用は、採血回数、測定回数にかかわらず所定点数に含まれるものとする。判断料は算定できない。

※日本腎臓学会より公表された日本人のeGFRcysの推算式

$$eGFRcys (mL/min/1.73m^2) = (104 \times 血清シスタチンC値^{-1.019} \times 0.996 \times 年齢) - 8 \text{ (男性)}$$

$$eGFRcys (mL/min/1.73m^2) = (104 \times 血清シスタチンC値^{-1.019} \times 0.996 \times 年齢 \times 0.929) - 8 \text{ (女性)}$$

※※CCr (Cockcroft-Gault推定式)

$$CCr (mL/min) = (140 - \text{年齢}) \times \text{体重} / (72 \times 血清クレアチニン) \quad (\text{女性は} \times 0.85)$$

## ■クレアチニクリアランス・尿素クリアランス

1.完全排尿後、水500mLを飲水。

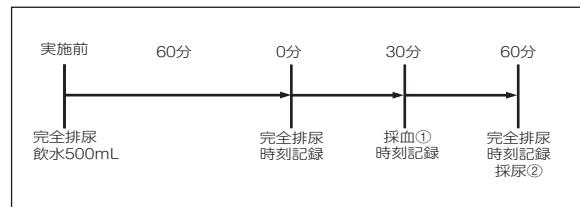
2.飲水60分後に完全排尿し、この時刻を正確に記録。  
(時間測定開始)

3.測定開始30分後、採血3mL・・・①

4.測定開始60分後、完全排尿して正確に尿量及び終了時刻を記録し、一部を出検・・・②

注意) 早朝空腹時に実施、検査終了まで安静仰臥がよい。  
不完全排尿は測定誤差の原因となるので、必ず完全排尿させてください。

提出) 身長・体重・採血時間を明記した容器①と  
全尿量・採尿時間を明記した容器②



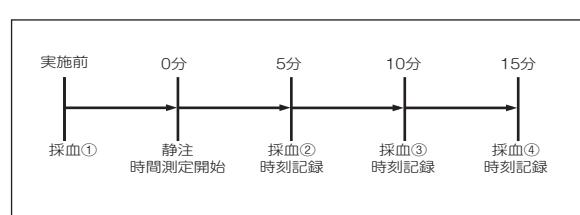
## ■インドサイアニングリーン試験 (ICG)

1.早朝空腹時に採血3mL・・・①

2.ジアグノグリーン25mgを注射用蒸留水5mLに溶かし  
体重10kgにつき1mLを約30秒かけて静注。  
(時間測定開始)

3.静注開始後、5分ごとに3mL採血を3回。・・・②③④  
注意) 早朝空腹時に実施、検査終了まで安静仰臥がよい。  
採血は、注射と反対側の腕からおこなう。

提出) 消失率: 採血時間を明記した容器①②③④の4本  
停滞率: 容器①の④の2本。



## 【CKDの重症度分類】

原疾患	蛋白尿区分		A1	A2	A3
	尿アルブミン定量 (mg/日)	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
糖尿病	30未満	30~299	300以上		
高血圧 腎炎 多発性囊胞腎 移植腎 不明 その他	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿		
G1	正常または 高値	≥90			
G2	正常または 軽度低下	60~89			
G3a	軽度~ 中程度低下	45~59			
G3b	中程度~ 高度低下	30~44			
G4	高度低下	15~29			
G5	末期腎不全 (ESKD)	<15			

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死発症のリスクを緑色のステージを基準に、黄、オレンジ、赤の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

(KDIGO CKD guideline 2012を日本人用に改変)

